

筑波キングス・ガーデン
短期入所生活介護事業所

1 ご利用者について

定期的な利用をされている方の他に、毎月の新規利用者は、概ね **2～8** 名であった。

特養入所者の入院や退所に因り空床となったベッドをショートステイ利用者が利用する空床型では、一体型の施設として、双方で補完しあって進めていく体制を維持継続する事が出来た。

長期的利用者（ロングショート）は、年間通じて **5** 名程度。内訳は、特養入所待機者。新規（初回）利用からロングショート希望される傾向が継続している。

実利用者平均介護度は **3.5**。延べ利用者数の中では、要介護度が **3～4** の方が全体の **6** 割。「身体的不自由で寝たきりの方」よりも、「身体的に動けるが、認知症が重い方」への傾向が強い。

送迎では、以前よりも、歩行等自立している利用者が増え、介助用車椅子やチルト式車椅子利用者が減少している。身体的自立度が高い反面、認知症状が強く、行動の安全・危険の認識困難者が増え、迎え入れ・帰宅時の安全対応が求められている。又、感染症や内服薬の多様化への対応が更に増えている。その為、事前周知と準備、細心の取り扱いに、職員一人一人が集中する必要がある。

季節の変わり目など、ちょっとした気候・環境の変化の熱発や、自宅で転倒等での打撲や皮下出血に因り、利用初日の段階で体調不良の利用者が多く、受入れ後、数時間の滞在で体調不良で帰宅される利用者のケースも増加傾向。又、新規受入当日の朝に（心理的要因もあると思われるが）体調不良となりドタキャンとなるケースも見受けられる。これは、利用に関して本人の意向よりも、家族事情が優先されている事を示していると思われる。受入れ前から、本人を中心とした家族との連絡調整、心身両面での健康チェックの重要性が増してきている。

対応困難事例の利用者も更に増加。その様な場合、家族の全面的な協力体制が必須となるが、介護放棄や虐待が伺えるような、家族自体に複雑な問題を抱えている事もあり、利用者自体の課題よりも、介護者の事情により、受入れ自体が難しくなる事がある。利用者の生活ニーズに対する支援という視点に立つ時、対応技術の重要性を実感する。

ショートステイのご利用予約は、通常は、**2** か月前から頂いているが、今年度は、利用者自身や介護されている家族の突発的な事情に因り、予定外日程でのご利用依頼の増加が目立つ。緊急確保枠を **1** 床確保し、迅速かつ柔軟に対応させて頂ける様、受入れ体制を維持・継続出来る様、尽力していきたい。

S・F様 女性 88歳 要介護5

骨折入院で、入院適応できず、精神症状が著しく悪化。ケアハウス退所し、退院後ショートステイの利用開始。本人の状況に応じた対応により状況が改善。

(基本情報)

性格：利己的でプライドが高く、感情の起伏が激しい。穏やかな面との差が大きい。

既往歴：脳梗塞（右半身麻痺）、高血圧、卵管膿腫、右大腿骨頸部骨折

その他：金銭感覚が希薄で散財癖。取り寄せの菓子類への執着が強い。

身元保証人がいない。

(経緯)

2019年5月、ケアハウスに入居中、自室で転倒。骨盤骨折の診断で水海道さくら病院入院。高齢で手術のリスクも高く、保存的加療となる。7月初め、「毒が入っているから食べない」等の発言を繰り返し、治療、飲食を拒否するようになる。点滴を行うことで生命状況は維持されるも、自己抜去等の為、身体拘束を行うことに因り、被害妄想が強く出る。

病院側より、栄養摂取の改善や、精神安定の為、これまで住み慣れた施設、又、本人の信仰の面からもキングスガーデンへ帰ることを勧められ、7月22日よりロングショート開始。

初日より、病院同様、食事・内服の拒否、特に男性職員のケアの拒否が強い。感情の起伏が激しく、暫くの間、馴染みのあるケアハウス職員にケアの協力を依頼。

食事は毎食0～3割程度。離床も拒む為、居室配膳。お取り寄せの好んで食べる煎餅で凌ぐ状況が続いた。内服拒否も強く、飲むと言うが、職員を目を盗んで床に捨ててしまう。

食事の際、少し世間話をしたり、近くに居る他の利用者の食事介助や内服介助の様子を本人に見て貰った後に、本人の対応を行うようにした。

その結果、徐々にではあるが、他の利用者と食堂で談笑しながら食事をしたり、内服もスムーズに行えるようになった。食事が苦痛を伴うものではなく、みんなと一緒に楽しいものと感じて貰えたことで、食事摂取量も毎食8～10割と飛躍的に上がった。

排泄介助、ケアに対する羞恥心が強く、特に男性職員に対し「あなたは悪い人！早く部屋から出ていきなさい！」と毎回興奮し、職員を叩く、噛みつく、引っかく等の行為。又、夜間帯もオムツカバーを意図的に外し、毎回失禁の状態。対応は同性介助とし、日中はリハビリパンツに変更。オムツ交換等の直接的な表現は一切出さず、「トイレは大丈夫ですか？」と声掛けを統一。拒否が見られた時には無理せず対応、拒否・暴力行為は徐々に減少。自ら「トイレに座りたい」と言われることが増えていき、トイレに座る際、「ありがとう」と感謝の言葉を言うようになる。

利用当初は、目を閉じ、居室のベッドで臥床していることが殆ど。他者に対して表情は陰しく全く心を開いてもらえない状態。自分が嫌だという意思を、言葉ではなく、相手を叩く、噛みつく、引っかく等の行為で表出。「殺される」「もうすぐここは爆弾が爆発する」「もうすぐ死ぬの」と口から出る言葉は後ろ向きの悲観的なもの。不眠が続き、「主人が帰ってくる」「こんな所に居られない」と深夜まで車椅子に乗車、体動激しく目の離せない状態。

職員よりも同年代の他の利用者と一緒に過ごして頂く時間を増やす、可能な限り離床時間増やす、嫌だと言ったら無理強いはいしない、近くに居る他の利用者から先に対応し、その職

員が対応しても安心・安全であることを理解して貰える様、日々積み重ねていくことで心の平安を得ていったようである。

日中離床時間の増加、夜間睡眠時間の増加、他の利用者と笑顔で話す時間の増加、悲観的な言葉・表現、職員に対する暴力行為の減少、職員とも馴染みの関係を構築していき、男性職員を嫌悪することがなくなり、談笑出来るようになっていった。

本人の性格、思考、嗜好、生活歴、家族関係、取り巻く環境等を十分理解した上で、マイナスの状態から時間を掛け日々積み重ねていくことで心の安定に至った事は、今後のご利用者支援に活かせると思う。

3 利用形態について

7～8月は酷暑であり、自宅での生活では熱中症などの危険性が考えられる為、この期間、通常は短期間利用の方が、避暑目的で長めのショート利用をする傾向がある。

通常の利用傾向としては、(土)(日)(月)の週末にかけてが多い。ロングショートの利用希望者が、(土)(日)(月)の週末にショートステイの居室に空きが無く、予約が取れない場合に、(月)～(金)のご利用を希望され、その上で、常時、(土)(日)(月)の週末の日をキャンセル待ちする傾向がある。可能な限り長い日程でショートステイを利用したい、出来れば最初からロングショート利用希望がある。今後も、ロングショートを希望される利用者のみならず、空床が生じた際、速やかに個々のご利用者の依頼・要望に即した利用をして頂ける様、積極的に情報を発信していきたい。

年間平均利用者実績(一日あたり): 18名。

4 感染対策

インフルエンザ・感染性胃腸炎等の感染予防対策を実施。ここ数年は、利用者・職員での罹患は無し。今年度後半は、新型コロナウイルスの猛威に因り、全ての活動において心身両面で停滞する状況に陥っている。これまでは、受入時に利用者のみならず介護されている家族自身の健康チェックも、細やかなコミュニケーションを継続を重ねてきた事が予防に繋がったと思う。日々の励行の大切さを改めて思う。今回の経験を通し、感染症を罹患するということは、利用者が健康を損なうのみならず、感染対策を布くことで、利用者自身の日常生活全体の質、或いは、施設自体の運営さえも極端に損なう事になる。生活ケアの観点から、感染予防対策は、確実に励行していかなければならない。

これまで以上に、職員の経験・取り組みが実践を通して試され、丁寧な対応が良い結果として継続されていく様、ケアに携わる者の基本的な心構えとして、嗽、手洗い、食事、睡眠、ケア内容の同質化等、凡事徹底の維持継続を心がけていきたい。

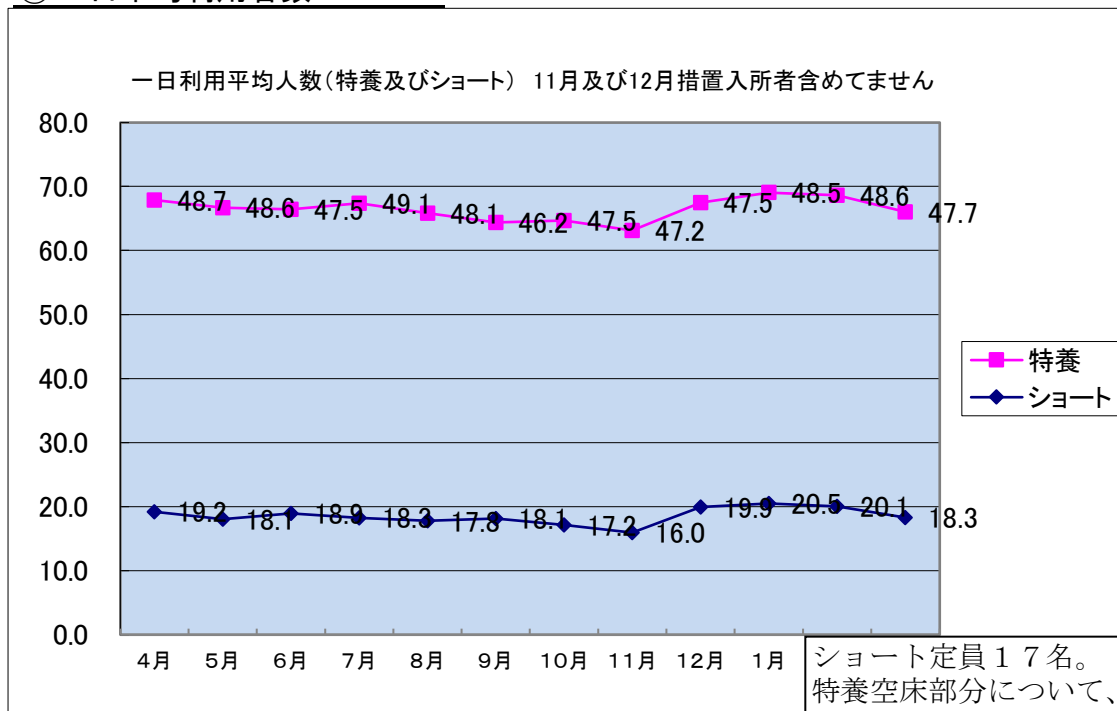
新規（初回）ご利用からのロングショート利用依頼、照会、問い合わせの動きは依然として増加傾向。他事業所への情報提供等の取り組みを継続していきたい。ロングショート依頼の背景には、独居世帯の増加、家族関係の希薄性、親族含めた介護力の低下から在宅での生活が困難となる切実な事情が垣間見える。この傾向は今後も更に継続・増加していくものだろう。その利用者を中心として関わる関係職種間で連携・協力し、可能な限り、そのご利用者本人を快適且つスムーズに受け入れが出来るように、一人一人の課題に柔軟に対応していきたい。

受入れ時、自立した生活が困難となり利用希望に至った背景・経緯をよく踏まえ、これまで以上に健康面での体調管理に細やかに様子観察・対応していくことが継続した課題。特別な事由の是非に限らず、他事業所からのショートステイご利用依頼は、可能な限り受け入れ、ご利用者自身とご家族の要望に可能な限り貢献出来る様、配慮・対応していきたい。

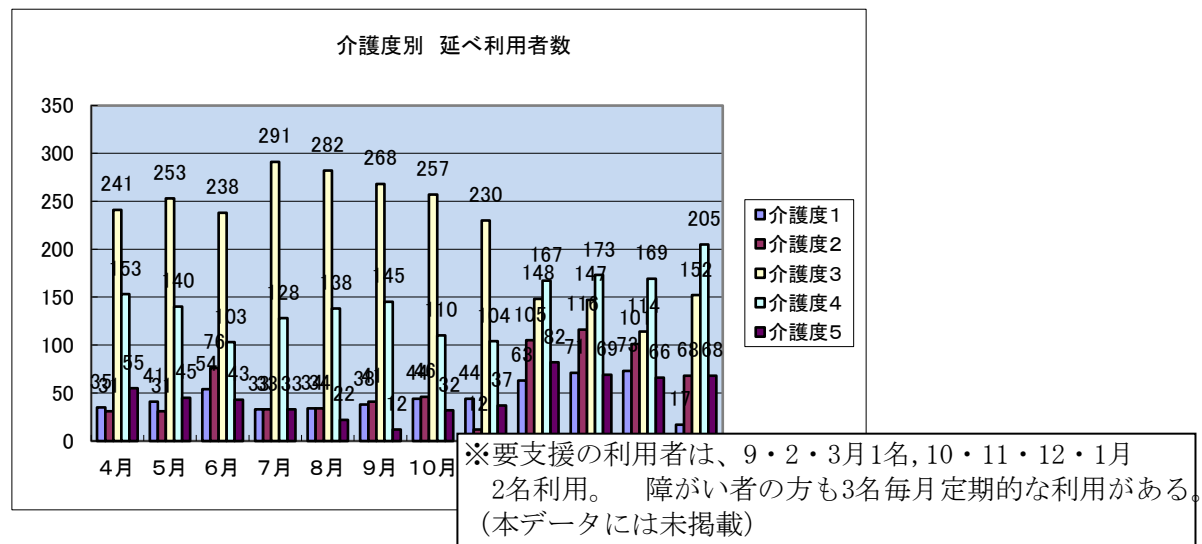
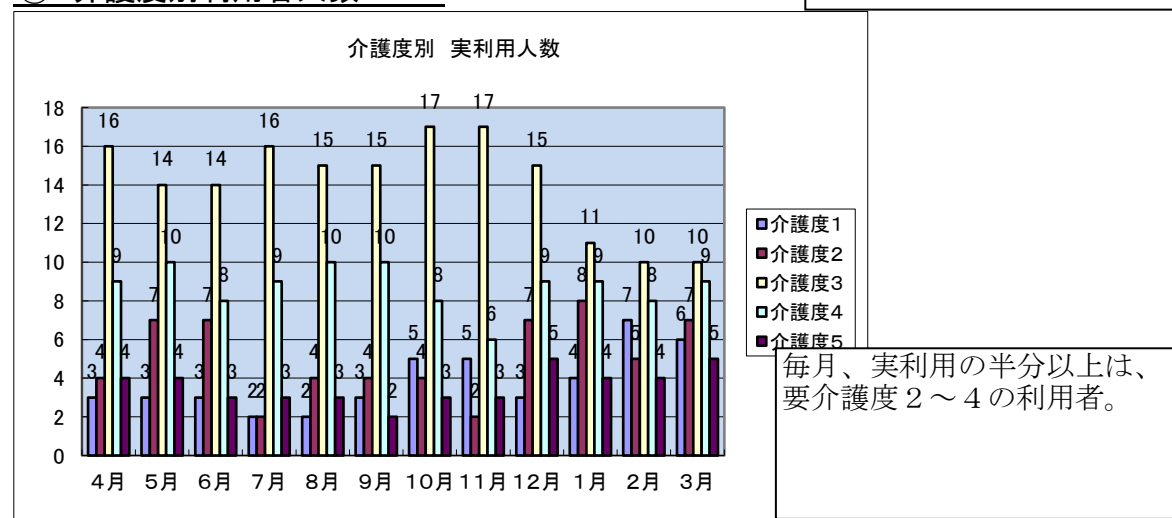
今後の取り組みについて、利用者本人、家族の要望・依頼・必要性を踏まえ、その利用者に関わる関連職種と連携を密にし、可能な限り、ADL・IADLの維持・向上を目的とした機能訓練を実施していきたい。レクリエーション的な楽しみと身体的機能の維持・向上の両面において、そのご利用者としての「生活の快」を、ショートステイとしてどのように取り組んでいけるかを職員全体で模索していきたい。

2019年度 ショートステイ実績データ

① 1日平均利用者数



② 介護度別利用者人数



2019年度事業報告

5-1

筑波キングス・ガーデン 訪問介護事業所

1 実績と現状

<実績>

月平均実人数は45.4名、延べ430.5件。年間実人数61名、5166件。内訳は介護保険25名、総合事業14名、自立支援22名（併用者含む）。新規登録22名。市内・市外の他訪問介護事業所の閉鎖に伴う移行も積極的にお受けした。

<サービス内容>

介護保険では、独居高齢者の安否確認を含めた生活援助・身体介護のご希望が多い。
78条移送サービスは定期及び急な通院、金融機関送迎等にご利用頂いた。
総合事業では、家事援助、身体介護に加え、同行援護では、全盲のご利用者がヘルパーの付き添いにより1回50分程度歩かれ体力維持や気分転換、社会との繋がりが保たれ大変喜ばれた。ご利用者の高齢化・重度化に伴い、より安全な介護が求められる。
4条介護タクシー実人数月平均12.8名、延べ26.5件。年間実人数153名、延べ318件。
78条移送サービス実人数月平均1.5名、延べ2.4件、年間延べ29件。
新しく作成したパンフレットで病院や他事業所へPR活動を行い、転院・転所・入退院時のご利用へと繋がった。ホームページも更新し、ご利用者が予約受付票をご自分でダウンロード頂けるようになり、お申し込みの促進に繋がった。

<介護度・障害程度区分>

要支援14名、23%。自立支援を踏まえご自分で出来る事が増える様ご支援させて頂いた。
要介護4～5は認知症Ⅲa以上の方と合計して20%を超え、特定事業所加算（重度要介護者等対応要件）を満たした。独居の方の安否確認を兼ねた生活援助、デイ送り出しや入浴介助等。事故防止をはかり、丁寧なケアを行い、安心してご自宅での生活が出来るよう努めた。
自立支援ご利用者の内訳は、身体障がい9名（81.8%）、知的障がい1名（9.1%）、精神障がい1名（9.1）%

<サービス提供時間>

日中の家事援助・身体介護とともに、朝のデイ・ショート等の送出しやモーニングケアのため8時、夕はデイの迎え入れや就寝介助等のため17時代以降のご希望者が複数重なった。できる限り対応させて頂いた。

（訪問介護）

2 訪問介護業務

5-2

<事例報告>

(Ⅰ) 要支援1 81歳 独居男性

穏やかなお人柄で、近所の友人がよく来て下さる。元大工さんで、上がりがまちの手すりは以前ご自分で製作されたという。自宅の脱衣所で転倒骨折し、2日半ベッド上で身動きがとれず、近所の友人が発見、ご家族に連絡し救急搬送され、ご自宅に退院され訪問介護サービス開始。買物代行や屈めない部分の清掃を中心にご支援させて頂いた。現在は回復し、要介護から要支援になられ、料理上手でご自分で魚をさばいたり、煮物や揚げ物も作り、庭で季節の野菜の苗を育て、収穫を楽しみにされている。

(Ⅱ) 要介護2 65歳 独居男性

頼まれたら断れない優しいお人柄で、これまで障害福祉サービス（家事援助）をご利用されていたが、65歳となったため家事援助のみ介護保険（訪問介護）に切替えとなり、就労支援は障がい福祉サービスにて継続されている。

金銭管理が苦手なため、社会福祉協議会の日常生活自立支援を利用されている。

ヘルパーと一緒に近所のスーパーへ歩いて買い物に行き、好きな物を購入され、帰宅後ヘルパーと相談しながら作る料理も楽しみにしておられる。行政・ケアマネと連携し提供している。

(Ⅲ) 移動支援 新規利用者

63歳 男性

体力維持と自分で選んで好きな物を買う事を目標に、ヘルパーと一緒に歩いて近所のドラッグストアやコンビニへ出掛ける。昼食のお弁当と飲み物や日用雑貨を購入している。

10代児童

養護学校からスクールバスの停留所、ヘルパーが本人の車椅子で迎えに行く。抱きかかえてバスから車椅子へ移乗介助し帰宅する。体調がすぐれず登校できない日も多いが、10分程の時間を電車や周りの景色を楽しみながら帰宅。帰宅後シャワー浴や清拭を介助させて頂く。

<研修>

今年度の目標を立て、その目標にそった研修に参加していくよう計画。来年度は研修スケジュールをこまめにチェックして、参加機会を増やし、各人のスキルアップにつなげ、キングス・ガーデンの理念・精神を受け継いでいきたい。

<ヒヤリハット・事故報告>

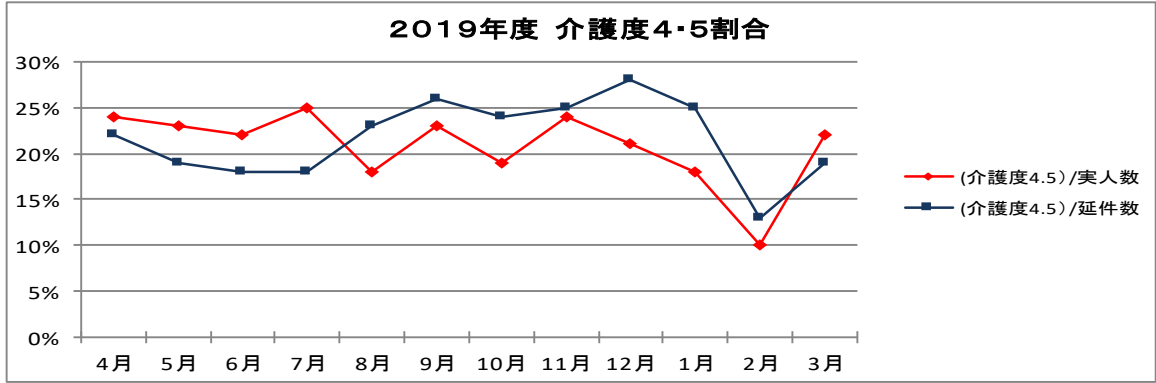
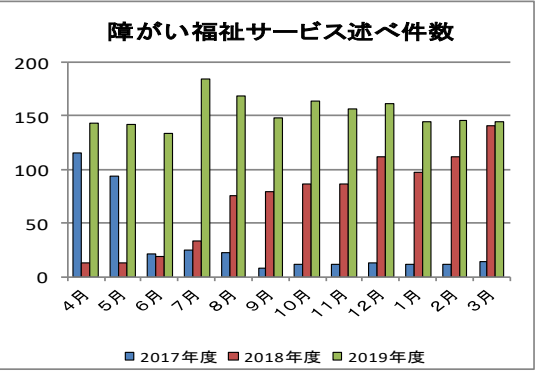
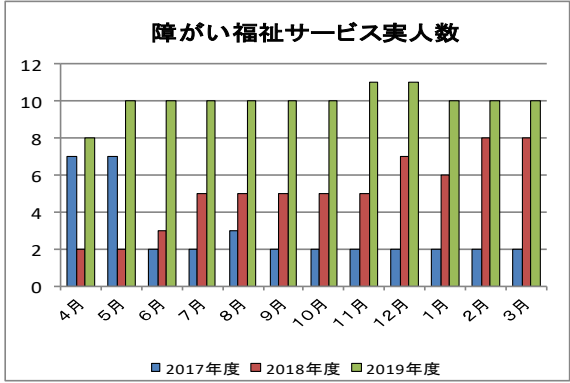
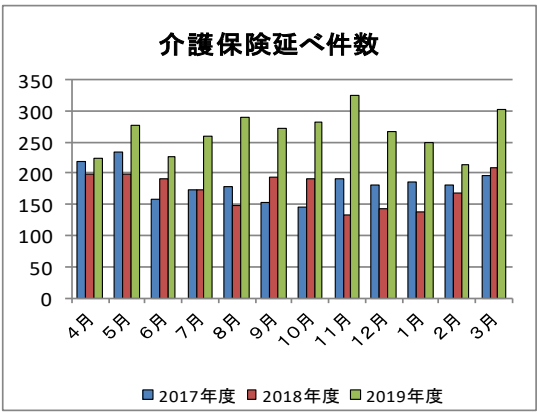
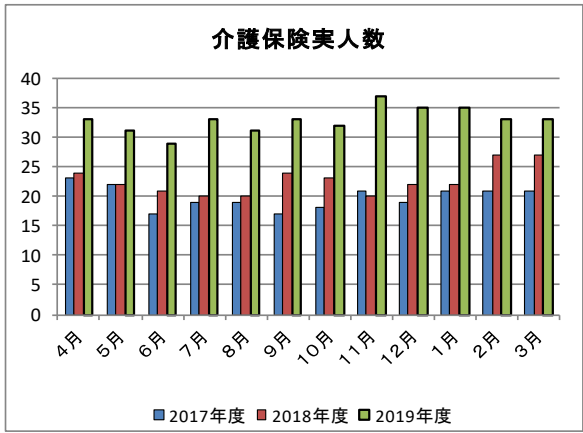
車両事故2件、調理時の異物混入1件、訪問漏れ2件。

周囲の状況確認・安全運転・作業の徹底、提供票の再確認と予定表へのキャンセル記入を、主任とヘルパーによりダブルチェックとした。

<総括>

介護保険は実人数、延べ件数ともにご利用数を増やして頂く事ができた。PRの継続と関係機関と連携しご利用者・ご家族に喜んで仕えていきたい。

特定事業所加算Ⅰの要件「重度要介護者件数20%以上」も維持できるよう、重度身体介護や認知症Ⅲa以上のご利用者も積極的にお受けしていく。介護技術の研鑽に勤めたい。



(訪問介護)

2019年度事業報告

筑波キングス・ガーデン
通所介護事業所

1. 利用者数

稼働日数	313 日間	前年比
年間利用延べ人数	7053 名【昨年 7063 名】(図 3)	(-10 名)
1 日平均利用者数	22.5 名【昨年 22.6 名】(図 1)	(-0.1 名)
稼働率年間平均	64.6%【昨年 64.7%】	(-0.1%)
年度内利用終了者	27 名【昨年 31 名】	(-4 名)
年度内新規利用者	37 名【昨年 25 名】	(+12 名)

稼働率(図 1)は年度当初は 69.7%だった。例年と違い、夏季から秋季にかけて落ち込み、11 月は 58.9%であった。その後冬季に上昇し、現在は 66.4%となっている。年間平均では 64.6%。昨年とほぼ同数となっている。

総利用者数は、前年度とほぼ同数であった。終了者 27 名の終了理由は、

- ①8 名の方が逝去されている。
- ②その他の利用者はロングステイサービスへの移行や施設入所、または長期入院の為に利用終了となった。

年度当初の利用実人数は 61 名で、3 月現在も 61 名となっている。終了者に加え入院や自宅療養者の増加により実利用者が減少したが、新規利用者を多数受け入れる事ができた為回復した。

生活介護を利用されている障がい者の実人数は、3 月現在 7 名。その内 4 名の方にはショートステイ利用中にもデイサービスを利用して頂いている。

2. ご利用者の形態

3 月現在の介護保険の方は 54 名。年間平均介護度は 2.3。要介護 2 以下が 51%を占め、軽度の方の需要が高まっている。要介護 3 以上は 34%。中重度者のサービス終了が重なった為、減じた。

生活介護では、身体障がい・精神障がい・知的障がいと、様々な障がいのある方を受け入れている。全体の内、障がい者が占める割合は 15%。7 名の内 6 名の方が区分 5 以上であり、重度の障害を持った方々と高齢者が共に過ごせる環境作りに努めている。

3. 送迎

多方面地区からの利用と、車椅子対応希望の増加に伴い、車両を 6 台稼働して対応した。それでも足りなかった為、ピストン送迎をする事で対応したが、お迎えが遅くなってしまった利用者からクレームを頂く事があった。運転手の確保のため、法人事務長・法人運転手・施設管理職員に協力して頂いた。

家族が就労しており送り出しができないケースや、独居の方も増加している。ケアマネージャーを通し、訪問介護に送り出しを依頼した。金銭的に介護サービスを増やせない方は、個別で送迎を行ったり、職員 2 人介助で対応した。

大型の車両では道路の関係で送迎が困難な方が多い。車椅子対応の中型車両が必要とされている。

4. 入浴

年間 4449 回実施(入浴介助加算対象)。ご自宅での入浴が困難な為に入浴目的で利用されている方が多く、利用者の約 9 割以上の方が入浴サービスを利用されている。ただし、要支援の方と障がい者の方は入浴介助加算の対象外となっている。

介護職員は 5 人体制が望ましいが、4 人で行う事も多く、そういった時に事故が発生している。職員一人一人の介護技術の向上が求められている。次年度は勉強会やトレーニングの時間を積極的に設けていきたい。

5. リハビリ

個別機能訓練(Ⅰ)・(Ⅱ)の実人数は現在 43 名。延べ利用回数は(Ⅰ)が 2816 回、(Ⅱ)が 1855 回だった。運動器機能向上加算の対象者は 8 名で、毎月実施している。

配置上の関係で 4～6 月は(Ⅰ)の算定ができなかったが、7 月より柔道整復師、9 月より作業療法士が加わった事で、昨年と比べ 700 回増加した。

6. アロマフットケア

年間 230 回実施。昨年と同じく多くの方に提供できた。心待ちにしているご利用者も多い為喜ばれている。来年度も積極的に提供していきたい。

7. リスクマネジメント

今年度の事故件数は合計 52 件、ヒヤリハットは 30 件だった。

骨折事故が 1 件あった。帰宅送迎時、自宅玄関を開ける為に利用者から離れてしまい、玄関ドアを開けている間に尻もちをつかれ、腰椎圧迫骨折された。自立度の高い方であっても、利用者から目を離さないよう注意する。

車両事故は 4 件あった。4 件とも車両を縁石等に接触させる事故であった。狭い路地には侵入しないように、また、切り返す際は周囲に十分に気を配るよう注意する。

8. 行事

4 月：お花見



暖かな春の日差しに目を細めながら、桜の木の下で散歩を楽しみました。満開の桜や椿を眺めて、季節の移り変わりを皆さんに感じて頂きました。

5月：棟外散策、運動会



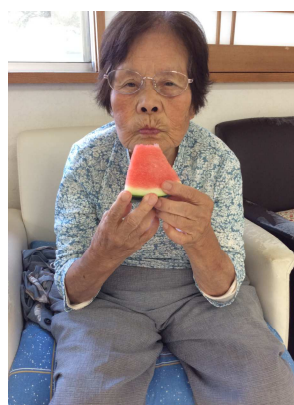
皆さんと一緒に施設周辺を散策しました。色とりどりの花をバックに記念撮影。
今年も運動会に張り切って参加して頂きました。雨天の為、施設内開催となりました。

6月：たこ焼き



目の前で焼いたアツアツのたこ焼きを提供しました。

7月：すいか割り



今年も思い切りすいかを割って頂きました。甘くて美味しいすいかでした。

8月：かき氷



トッピングし放題の豪華なかき氷で、ひと時の清涼感を味わって頂きました。

9月：敬老祝会



長寿のお祝いに日替わりケーキを提供。曜日対抗ゲームで盛り上がりました。

10月：焼き芋、ふくし祭り



デイサービスの中庭で、バーベキューコンロを使用して焼き芋を焼きました。
常総市役所で行われたふくし祭りに、キングス・ガーデンも出店しました。

12月：クリスマス祝会



厳かな雰囲気の中、キャンドルサービスを行いました。ハンドベル演奏を披露して頂き、
サンタクロースからプレゼントを手渡され、大盛り上がりでした。

1月：初釜



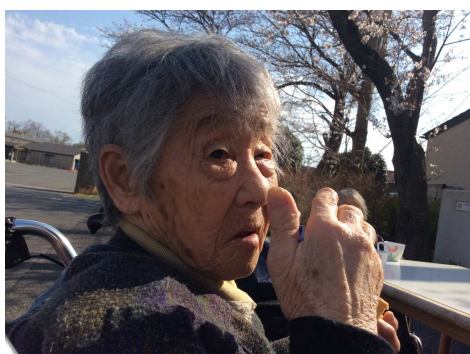
新年を迎えて初めてのお茶を点て、和菓子と共に提供しました。

2月：桜餅作り



たっぷりの餡子を焼きたての皮で包み、桜茶と一緒に召し上がって頂きました。

3月：お花見



暖かい日が続き、今年は早めに開花した為、3月に桜のお花見をしました。

《総括》

例年と違い、夏季から秋季にかけて体調を崩されて入院される方や、亡くなられる方が多い年であった。サービスを毎年冬季は体調不良でお休みされる方が多く、稼働率も落ち込む時期だが、今年は新規利用者の紹介を多数頂いた事で回復した。

また、癌と闘う身でありながら、デイサービスで楽しみを見つけないという方や、最後までその人らしくいて欲しいと願うご家族と関わりを持つ事ができた。「デイサービスに行くようになってから元気になったから驚いた。本人も行くのを楽しみにしていました。本当にありがとうございました」とご家族が話されていた事は忘れられない。短い期間であったが、その方にとって充実した時間を過ごせたのではないかと思います。

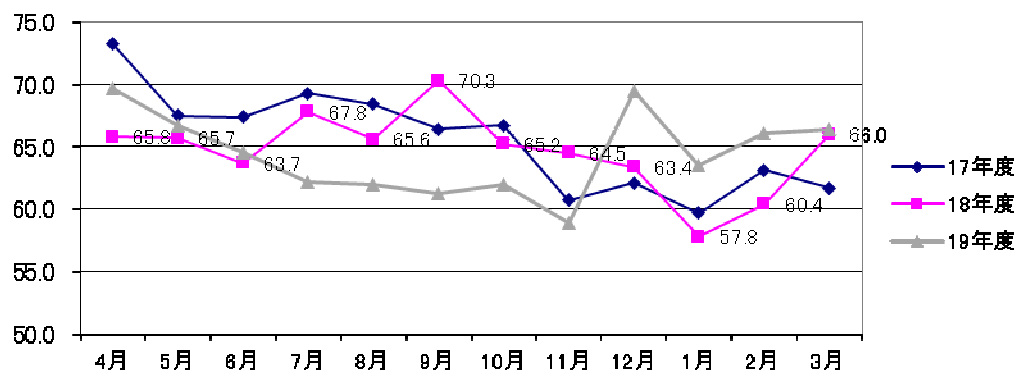
今年度はインフルエンザの感染者が出なかった事は幸いであった。しかし、新型コロナウイルスに備える為、感染対策により一層力を入れた。ご家族にはお知らせを通して注意喚起を行い、朝の検温とマスクの着用に協力を頂いている。

柔道整復師と作業療法士が新たに加わり、機能訓練にさらに力を入れる事が出来るようになった。6月までは加算の算定も出来なかったが、年間を通して見ると、昨年より多くの機能訓練を提供する事が出来た。

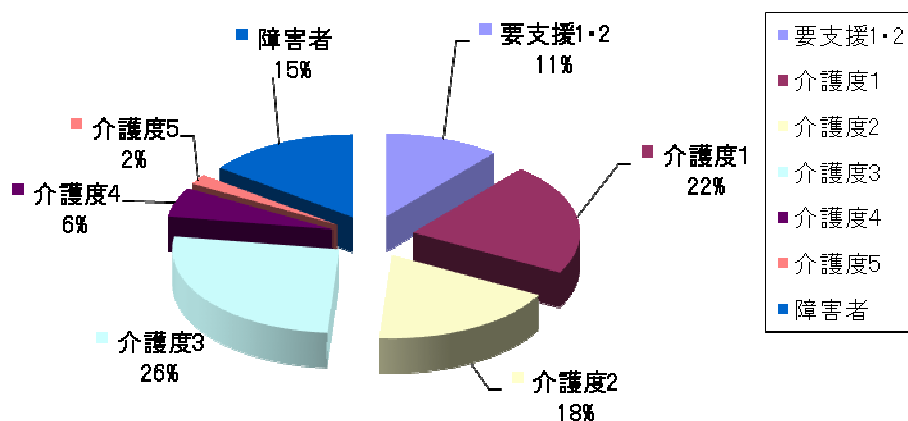
事故の件数は例年と変わらないが、今年は骨折事故が起きてしまった。自立度が高く、これまで転倒した事の無い方であっても、常にリスクはあるのだという事を念頭に置いて利用者と接していく。

2019 年度 デイサービス実績報告

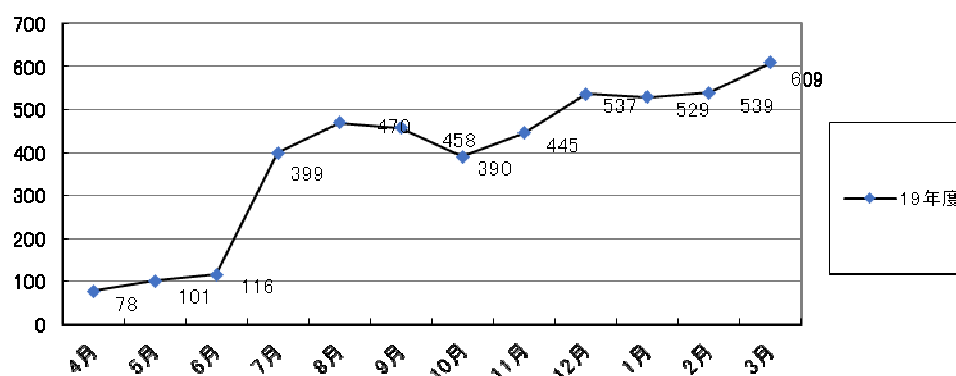
月間稼働率(年度比較) 図1



年間介護度別割合 図2



月間個別機能訓練(I・II合計) 図3



2019年度 事業報告

筑波キングス・ガーデン 居宅介護支援事業所

1. 相談援助の実績と現状

1. 相談実績

ご家族、医療機関、市役所、他居宅等からのご依頼を頂いた。緊急・ターミナル・困難ケースも即対応に努めた。

新規利用者は66件（前年度31件）。ケアプラン作成件数は月平均113件（前年度100件）、請求件数は月平均114件（前年度99.1件）。年間居宅実人数（請求実績に至らなかったケース含む）は、294件（前年度297件）あった。

2. 相談内容

相談内容の割合は「介護保険」が72.9（前年度67%）、「医療」が18.3（前年度16.6%（複数回答あり））を中心に、その他「施設入所」「住宅改修」「経済問題」がこれに続いた。

3. 介護度別件数

介護度別ケアプラン件数は、要介護1～2が50.1%（前年度50.7%）、要介護3～5が40.9%（前年度42.0%）、要支援1.2の方が9%（前年度7.3%）。常総市包括支援センターから要支援・認定待ちの方の依頼件数が増加した。

2. ケアマネジメント業務

1. ケアプラン作成

病院相談室や他居宅を訪問しPRを行い、常総市・坂東市地域包括支援センター、社会福祉課、病院連携室、他居宅からご依頼・ご紹介をお受けした。必要性・緊急性の高い方の即対応に努めた。介護保険以外の相談援助も積極的にお受けした。

2. 介護予防マネジメント

常総市・坂東市包括支援センターと連携し月平均10.3件（前年度7.3件）延べ123件（前年度87件）のケースを担当した。常総市内で介護予防マネジメントを受託する事業所が少ないが、当事業所は積極的にお受けした。認知症・医療・経済・家族問題等で多機関連携が必要なケース等は、同行訪問も行った。

3. 世帯別類型

日中独居世帯8.5%（前年度12.1%）、高齢者2人世帯は9.9%（前年度11.7%）、独居世帯は8.8%（前年度8.4%）であった。

4. 主介護者状況

老老介護5.1%（前年度6.4%）。認知症高齢者を認知症の配偶者が介護しているケース2%（前年度同数）。何らかの認知症がある高齢者全体の20%おられる。

5. 支援困難ケース

部署内でのミーティング、管理者（施設長）にご相談し、関係機関と連携して支援した。

困難内容の内訳では、家族問題が最多12.6%（前年度10.8%）で、認知症による周辺行動（被害妄想など）11.9%（前年度6.4%）、経済問題3.7%（前年度6.4%）。他機関連携3.4%、医療依存度・サービス拒否2.7%がこれに続いた。

虐待に近いと考えられるケースは、全体の4%、12件（前年度3%）。内訳は、ネグレクト7件、経済的2件（前年度5件）、身体的2件（前年度4件）、精神的1件（昨年度同数）。

6. 福祉用具相談

全体の63%の方が福祉用具を利用している。内訳は手すり46%、電動介護ベッド30%、歩行器19%、車椅子13%。床ずれ防止用具、リフト、杖がこれに続いた。病院と連携し、認定待ち、入院中、ターミナルの方の退院に備えた緊急の準備等も対応させて頂いた。

介護用ベッドを中心に、現状に適しているかを見直し、必要に応じて自費ベッド（介護保険適用外）への切り替えも行った。

7. 苦情・事故対応

自ら提供したケアマネジメントサービスやケアプランに位置付けた居宅サービスに関するご利用者およびご家族からの相談・苦情に対応した。主な内容は、以下の通りである。担当事業所・病院・ご家族との連絡確認を徹底し再発防止を図った。

- ・長期滞在できる施設が少ない。ショートは満床で老健施設は3月で退所しなければならず困る。
- ・ご家族間の連絡がとれていなくショート送迎の行き違い。
- ・ケアマネ・事業所・ご家族間の連絡不十分による区分変更中のサービス増回。

3. 認定調査

1年間に58件の認定調査を実施。土曜日等他事業所が対応していない曜日にも調査を行った。

新型コロナウイルス感染予防の為年度末は市直営で、有効期限がみなし延長となっている。

4. 介護者教室

理学療法士と管理栄養士による介護者教室を開催。各会とも、良い学びとなったと感想を戴いた。

日時	テーマ	講師	
10月19日（土）14時～15時半	「排泄介助について」	理学療法士	4名
11月9日（土）14時～15時半	「排泄介助について2」	理学療法士	20名
1月11日（土）14時～15時半	「高齢者の食事提供のコツ」	管理栄養士	24名

5. 生活支援配食サービス

市の委託事業であり、65歳以上の独居または高齢者のみの世帯を対象に実施。2019年度は、年間延べ配食数884件（前年度817件）、実人数月平均10名（昨年11名）。他事業所サービスご利用者が、配食のみキングス・ガーデンを利用する傾向もみられる。管理者にご相談し、市との連携を重視し、出来る限りご依頼に応じる姿勢で対応している。ケアマネジャーも配送・回収に加わり、市役所から困難ではないかとご心配頂いた認知症高齢者にも、訪問介護と連携し声掛けや回収時間等を工夫し、順調にご利用頂けている。

6. 研修、資質の向上

業務の中で研鑽やトレーニングができるように情報交換・情報共有、相互の助言を実施し、困難事例にも積極的に取り組んだ。

<参加した園外研修>

平成31年度認定調査員新規研修/居宅サービス計画書事例検討会に係る主任介護支援専門員研修会/排泄ケア研修会/認定調査員向け勉強会/令和元年度茨城県精神障害者相談支援実務者研修/平成元年度茨城県主任介護支援専門員更新研修/キャラバン・メイト養成研修会/「防災」と「福祉」の連携による高齢者の災害対策・対応研修/多職種意見交換会（「在宅における薬の困り事」）。

7. 常総市介護支援専門員連絡協議会への参加・包括支援センター・地域・行政との連携

介護支援専門員連絡協議会は相互研鑽と地域のケアマネのネットワークづくり、現場と行政の連携等のため役立っている。ご利用者の立場で、課題を発信し、個々の技術の向上を目指していきたい。

研修テーマ：H31年度の常総市の取り組み/生活困窮者自立支援制度について/精神疾患をお持ちのご利用者やご家族の支援について/地域資源を活かした災害時の対応について/訪問介護の自立生活支援について/医療連携。

地域ケアシステム関連の会議にも参加した。テーマ：第1回災害時用配慮者対応ネットワーク会議/平成31年度地域ケア個別会議/在宅医療多職種意見交換会/電子@連絡帳JOSOシステム操作等説明会。

常総市生活支援体制整備事業「生活支援コーディネーター」がスタートした。第2層水海道西中学校北区を担当している。日常生活圏域におけるニーズと多様なサービスを担う主体者とのマッチング、ボランティア・地域資源の開発、関係者間のネットワークの構築等を行う。当該地域では公共交通機関・総合病院や商店も少なく、移送や買物支援の必要性が高い。

「認知症交流カフェ」もスタートした。住み慣れた地域での暮らしを継続して頂けるよう、認知症の人とその家族を支える地域づくりを目的に、ぶどうの木を会場として、認知症の方とご家族、地域の方、認知症に関心のある方々が気軽に交流できる場として運営している。理事長による認知症サポーター養成講座、薬剤師の講演もあり多数のご参加を頂いた。

8. 総括・今後の課題

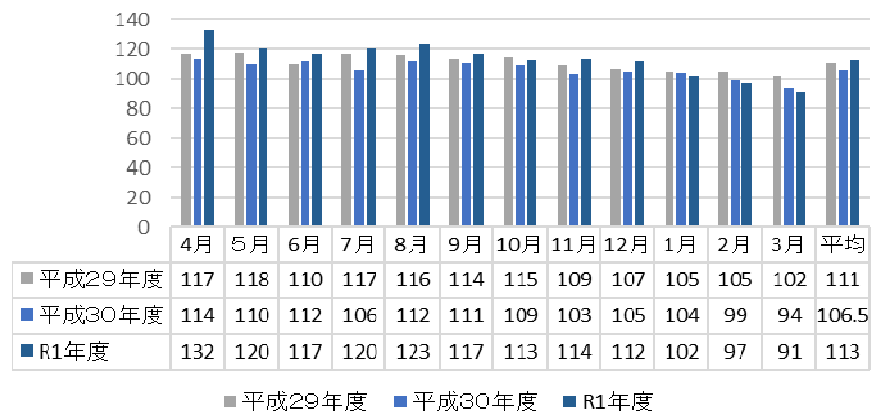
<年間を通してのご利用者の生活の質の向上の評価>

明らかに向上したと思われるご利用者が26.6%（前年度20%）、低下16.6%（前年度19%）、現状維持56.8%（前年度61%）。生活の質の客観的評価は難しいが、個々人の意識の向上とチームワークで、「その人らしさを大切に在宅生活を維持できるよう」ご利用者・ご家族の生活全般への広い視野を持ち共に考え支える、最適なケアマネジメントを目指し、向上していきたい。

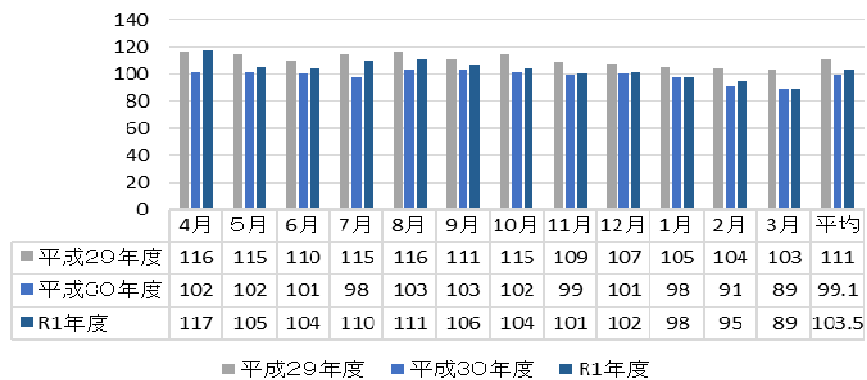
<課題>

- ① 必要書類の整備、担当者会議・モニタリングの徹底を図る。
- ② ご利用者の状態にふさわしい適切な支援ができるよう生活全体を把握するきめ細かいアセスメントと適切なケアプラン作成をする。
- ③ ご利用者・ご家族が相談しがいのある「援助としての面接」を行う力を養う。
- ④ 認知症・独居・高齢世帯とともに、障がい・精神疾患等のご相談も加わり、災害対応の必要性も増加している。地域の方、関係機関とのネットワーク構築を推進する。
- ⑤ 「筑波キングス・ガーデンは、24時間、365日相談できる機関」として、地域の方々・行政・病院関係に周知されている。長年にわたって培われた地域社会からの信頼を大切に、ご利用者の立場に立ち尊厳ある生活を支える専門職として、研鑽を続けサービスの向上を図りたい。

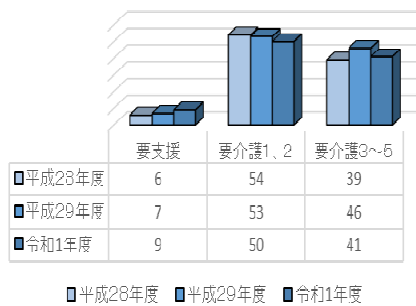
ケアプラン作成数



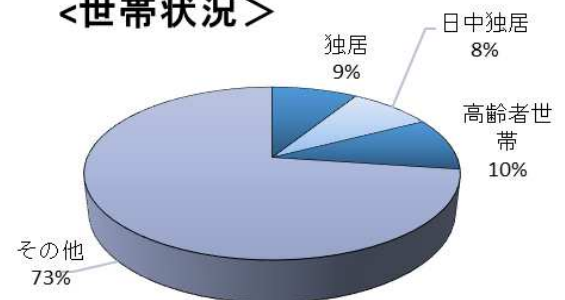
請求数



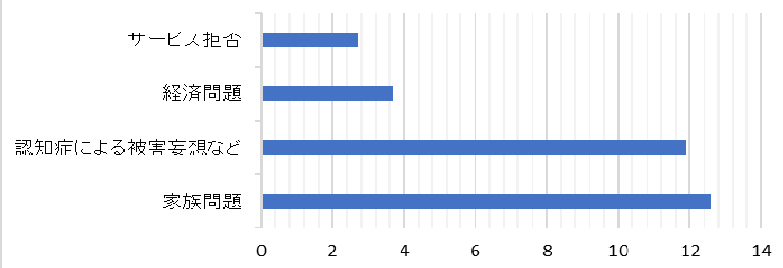
介護度別請求件数



<世帯状況>



支援困難事例内訳



筑波キングス・ガーデン
特定相談支援事業所

(はじめに)

特定相談支援事業所とは、障害福祉サービスを申請した利用者について、サービス等利用計画の作成、及び支給決定後のサービス等利用計画の見直し（モニタリング）を行います。

1、事業所の現状

2020 年 4 月現在、常総市に住む障がい者 2 名と、グループホーム利用者 11 名の計画相談を行っている。市内在住者については、2 名ともキングス・ガーデンのサービス利用者で、間接的に事業所から情報を得る事が出来ている。又、グループホーム利用者についても、同じ敷地の事業所であり、3 月前半までは相談員が行き来し、直接的に生活を垣間見る機会が得られたが、今般の新型コロナウイルス感染防止のため、施設に立ち入る事を出来るだけ控えている状況であり、必要最小限の面会となっている。

2、事例

2020 年 1 月、近隣の市役所社会福祉課よりハレルヤ就労支援の新規利用について相談があった 30 代男性。新規に申請したところ、療育手帳（知的障がい）が取得できた。高次脳機能障害や若年性認知症等、後天的な知能低下ではない事が判る。

就労支援サービス利用の為に計画相談が必要となり、相談員が面談・契約を行い計画書作成した。卒業後、数日働いた事があったが、長続きしなかったとの事で、その後は引きこもり状態であり、ほとんど部屋から出なかった。しかし、ハレルヤのパン工房を見学し、相談員と今後の生活について面談行ったところ、「まずは、(仕事をするという)スタート地点に立ちたい」と、前向きな意思表示があり、希望を持って就労に通う事になった。パン工房で働くためには、健康診断が必要で、診断結果が出る迄の間、食品とは別の軽作業をしてもらっていたが、数日通ったのちに、「もう辞めます。」と、来なくなってしまった。市役所に報告し、利用を保留状態としているが、希望があれば利用再開する予定である。

3、今後の課題

現状、相談支援員の更なるスキルアップの必要な状態である。他業務との兼任であり、介護保険サービスの繁忙期等には時間を割く事が難しい。新規利用者・困難事例の地域の障がい者サービスについての情報収集が課題である。幸いに、法人内事業所の相談支援員に相談できる環境があり心強い所ではあるが、別の自治体の事業所であり、参考にはなるが実際に適用する場合には、逐一確認が必要となる。

経験を積んで、地域の障がい者福祉に貢献していきたい。

2019年度 筑波キングス・ガーデン 特定相談支援事業所
市町村別 計画作成・継続支援 件数一覧

西暦	2019年																2020年						合計				
元号	H31		R 1														R 2										
月	4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		3				
市町村	計 画	継 続	計 画	継 続	計 画	継 続	計 画	継 続	計 画	継 続	計 画	継 続	計 画	継 続	計 画	継 続	計 画	継 続	計 画	継 続	計 画	継 続	計 画	継 続			
常総市	1		1		1						1			1		1		1						1	4	4	
守谷市				2	2										2			2	1						1	5	5
つくば市																			1						0	1	
つくばみらい市						1	1										1								2	1	
取手市												1													1	0	2
その他					1	1											1	1								2	2
児童																										0	0
合計	1	0	1	2	4	2	1	0	0	0	1	1	0	1	2	1	2	4	1	1	0	0	0	3	13	15	

通常、サービス等利用計画（上記：計画）の作成は12か月ごと。また、モニタリングである継続サービス利用支援（上記：継続）は、6か月ごととなる。

市町村によって違いがあり、上記取手市の利用者の場合は、計画の期間が36か月となっていて、2019年度中には計画は行わずモニタリング（継続）のみであった。

新規利用者の場合は、通常サービス利用後3ヶ月間の間、毎月モニタリングを行い報告するが、今回2020年1月に新規計画作成した利用者（事例で紹介）は、サービス利用初月の3月にサービス利用開始・保留となったので、3月のモニタリング報告書提出に留まった。